

食の安全推進のためのタウンミーティング結果

開催日:令和7年12月19日(金)

場 所:袋井市総合健康センター(袋井市久能2515-1)

主 催:静岡県

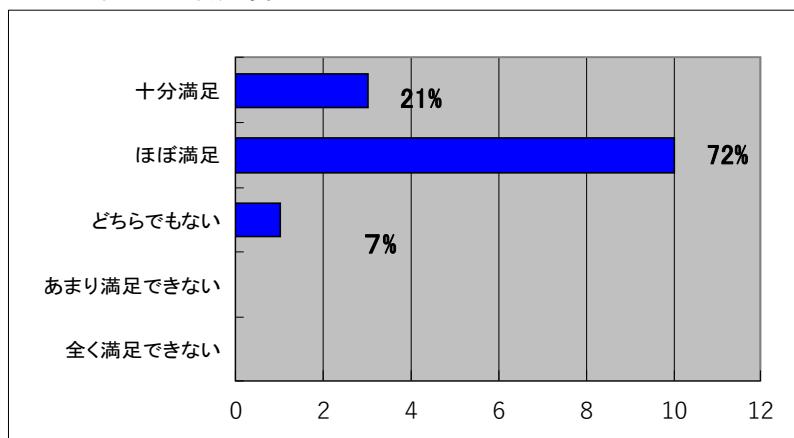
I 参加者

参加者:

人 数:16人(男性0、女性16)

II タウンミーティングについて

(1) タウンミーティングの満足度



III 意見・感想(アンケートから抜粋)

- 普段、口にしている食品について考えるよい機会になった。知りたかったことが意見交換の話題となり勉強になった。
- 輸入食品の検査の説明が分かりやすく、心配で購入を避けてきた輸入食品に対する考えが多少変わった。
- 県の取組みがよくわかった。配布された資料をよく読んでおきたいと思う。
- 信頼できる情報を県民に知らせて欲しいと思った。
- 静岡県のホームページの情報をもう少し増やしてはどうか。

IV 参加者からの意見・質問

Q: 食品の抜取り検査のうち輸入食品の割合が多い。国産と輸入では基準が違うからなのか。輸入食品について心配。

A: 国内で輸入される食品は、日本の基準に適合するものを輸入する仕組みとなっている。逆に日本から外国に輸出する食品では、相手国の基準に合わせることになっている。

輸入食品は、国の検疫で厳しくチェックされているが、県でも県内に流通する輸入食品の検査をしている。

県では県民に毎年アンケートを行っていて、輸入食品に不安を感じる方が多いので、検体数を多めに検査している。

Q: 食育というと子ども世代向けのイメージがあるが、働き世代、高齢者年代への対応はどう考えているか。

忘年会で飲食店を利用した際、若者向けの分量で食べきれず残してしまったことがあった。また、高齢者向けに減塩のお弁当を提供する活動をしているが、味が薄い、市販のお弁当の方が美味しいと言われて残念に思った。「健康のためには、これが適正な塩分ですよ」と伝えてはいるが、なかなか理解してもらえない。

A: なかなか理解が得られず大変なことですが、非常によい取組に感謝し、地道に継続をお願いしたい。

社会の年齢・世帯構成が変ってきており、企業も消費者のニーズに合わせて、高齢者層向けや単身向けの商品提供や健康に配慮した取り組みが以前より進んできていると感じる。県としても各世代への対応について課題と捉えていて、企業と連携して進めているところ。働きかけも行って徐々に改善していくと期待している。

Q: 食品に関する情報があふれているが、正しい情報はどう集めればよいか。

A: 基本的には、国や行政等の公的機関の情報になる。食品安全委員会、厚生労働省、静岡県のホームページ等を参考にしていただきたい。

Q: 健康食品が数多くあり、CMが目に入ることが多いがどのように選べばよいか。

A: 健康食品は様々あるが、医師が処方する薬ではないため、病気を治したり症状を改善するものではない。あくまで健康の補助的なものと考えていただき、食生活は、主食、主菜、副菜を基本にバランスよくしてもらいたい。健康食品にもそのように表示されている。

Q: 納豆を毎日食べるが、家族がタレが体に悪いと言っている。本当か。

A: 塩分や食品添加物の心配をされているのかと思う。基本的には安全性に問題はないと考えるが、健康食品と同様、同じ食品しか食べなかったり過剰摂取することはリスクがある。いろいろな食品をバランスよく食べてもらいたい。